

ねらいである。VTRの画像からイメージをふくらませ、ファンタジーの世界へ浸らせた。次々と飛び立つ蛍になり、それぞれの思いを表現させた。「うれしいなあ。」「今日からは一人前だ。」「うんと光るぞ。」と、思い思いの気持ちを表現していた。ややもすると、遊戯的になりがちなので、導入段階でのイメージづくりが大切である。グループごとの身体表現を発表し合う中で、自分と同じ気持ちや異なる表現に共感したり、発見したりしながら互いの心を通わせることができるようにした。ここでは特に次の点に重点を置いた。

○ 一人一人のイメージを充分ふくらませるため

の資料の提示(VTR)と場面を設定する。

- 自分自身のイメージに基づいて自由に表現できる雰囲気づくりを工夫する。
- 表現を発表し合い、互いの心を通わせ、それぞれのよさに気づかせる。
- 教師の発問は、気づかせたり、引き出したり、促したり、認めたりする言葉かけに留意する。「なるほどねえ。いいところに気づいたね。」「とってもうれしい気持ちがよくわかるよ。」「かわいい蛍だね。」「ともだちの蛍さんといろいろお話してごらん。」「すごいなあ、びっくりしたよ。」

段階	学習内容・活動	時間	指導上の留意点	集団に対する指導援助	個人に対する指導援助	検証の観点
気づく	1 夜空を舞う蛍の様子が映し出されたVTR(飛べない蛍)を視聴する。	7	○ 教室を暗くして夜の雰囲気を出し、VTRを視聴させ、蛍についてのイメージを膨らませる。 ○ 飛びつた蛍たちによって飛べない蛍がどのようにして立ち直ったかを考えさせながら視聴させる。			
	2 蛍たちの行動と気持ちについて話し合う。 (1) 自らか夜空を飛び交う蛍になりきって無言で動作化する。 (2) 演じた者とそれを見ていた者同士がそれぞれの思いを発表し、飛び回る蛍の子どもたちの気持ちについて話し合う。	25 (5)	○ グループ毎に、演じる者とそれを見る者とか、それぞれに思いを持って演じたり見たりできるようにする。 ○ 演じた者とそれを見ていた者とか、思いが異なる場合でも肯定的に取り上げ、演じた者の表現の工夫と見ていた者の真摯な観察しとを共に大切なこととして賞賛する。	○ 表現を発表し合い互いの心をおよませ、それぞれの思いのよい点に気づかせる。 ○ 気づかせたり、引き出したり、うながしたり、認めたりする次のような言葉かけをする。 ・なるほど、いいところに気づいたね。 ・とってもうれしい気持ちがよくわかるよ。 ・かわいい蛍だね。 ・ともだちの蛍さんと話してごらん。 ・すごいなあ、びっくりしたよ。 ○ 発表する者の目を見て、発表を最後まで待ってじっくり聴かせるようにする。	○ Y子は発表に自信がなかつてもじもじしてしまうことが多く、「早く！とせかされることもある。うなずきながら温かく見守り、最後まで発表できるよう勇気づけた。	○ 自分なりにとらえた蛍の気持ちを動作化しようとしていたか。 ○ 発表者の目を見て、発表を最後まで聴くことができたか。

図IV-1 指導過程(一部抜粋)

イ 相互の気持ちを体験的にとらえさせる

この段階では、飛べないでいる蛍とそれを励ます蛍たちの気持ちを役割演技によって表現させ、相互の気持ちを体験的にとらえさせるのがねらいである。特に飛べない蛍の気持ちを、日常生活の体験と重ね合わせ理解させていくことに焦点を当てる。飛ぶことのできる蛍になって、飛べない蛍へどのようにかわるかを役割演技で表現させ、互いに教え合う活動を通して、日ごろの自分自身に気づかせようとした。特に、M男とY子の表現を中心に、集団での話し合いを深めた。

M男：なさけないなあ。ぐずぐずしているとつか

まるぞ。

C男：そんなこと言ったらよけい悲しくなるよ。

M男：自分もつかまってしまうもの。

C男：えーっ、つめたいなあ。

T：M男君は、本当はとても心配しているんだよ。だから気をもんでいるんだね。

Y子：かわいそう。どうしたらいいのかなあ。

A子：どうしたらいいのか教えてやればいいのに。

T：Y子さんは、一緒になって考えようとしているんだよ。やさしいんだね。

このように、ここでは特に次の指導援助に重点を置いた。